

公益財団法人大倉精神文化研究所 令和6年度事業計画

公益財団法人大倉精神文化研究所(以下、「当財団」という。)は、創立者である大倉邦彦の「世の為に田を耕す」という理念に基づいて、昭和7年(1932)に創立されました。令和6年度事業計画は、この理念のもと、「心豊かな国民生活の実現」に貢献するという目的に向け、まとめています。

計画の柱は、定款で謳っているとおり、①精神文化の研究及びその成果の普及、②地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及、③附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備であり、この三つの柱に沿って事業を着実に推進し、文化の振興に寄与します。

特に令和6年度では、(1)デジタルアーカイブ(貴重資料の画像閲覧サービス)における公開資料の充実、(2)NDLサーチ(国立国会図書館サーチ)との提携による利活用の促進、(3)貴重コレクションの書誌データの作成促進及びOPAC公開に重点を置きながら、以下の事業計画を着実に実施して参ります。

1 精神文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第1号)

令和6年度も、(1)実用の学、(2)東西文化融合、(3)創立者及び研究所関連資料の三つの観点から精神文化の研究を進めるとともに、講演会や展示会の開催、印刷物の編集及び発行、電子情報の発信等を通して成果の普及に努めていきます。

(1) 実用の学の研究及びその成果の普及

当財団は、精神文化についての学究的な一面とともに、その学問が現実社会の宗教・教育・政治・経済の実地にふれ、よりよき社会への進展に貢献するという一面も備えています。

実用の学の研究では、このような考えのもと、実業家の実学観や文化事業・教育事業等の調査・研究や資料の収集を行っています。

創立者の大倉邦彦は、紙問屋を経営する実業家でした。大倉は、自分は何のために生きているのか、何のために利益を上げるのか、得た利益をどのように使うべきかを真剣に考え、そのたどり着いた答えが教育事業や精神文化事業への取組でした。大倉は、これを天から与えられた自らの使命と考え、精神文化事業を通して、有為な人材を育成することによって、社会をより良いものにしたいと考え、当財団を創立しました。

今日、海外企業をモデルに、企業のフィランソロピー(慈善活動、社会貢献活動)やメセナ(文化支援活動)などの必要性が叫ばれていますが、日本にも古くから神道、儒教、仏教等の教えから派生した社会貢献が行われており、江戸時代には石門心学に代表される町人道德も形成されていました。そこで、令和6年度も引き続き、「世のために田を耕す—実業家の教育・福祉活動」をテーマに、教育・福祉活動に尽力した近代日本の実業家の功績と、その思想的背景について研究を進めます。

また、新たに「近代日本人の海外体験とその影響」をテーマとした研究を始めます。

それらの研究成果は、次に掲げる大倉山講演会で公開するとともに、『大倉山論集』第71輯で特

集を組みます(後掲、4頁「1(4)ア 研究紀要『大倉山論集』第71輯の編集・発行」参照)。

【大倉山講演会】

令和6年度は、大倉山講演会を4回、表-1「大倉山講演会」に掲げた日程で開催します。いずれも横浜市大倉山記念館の指定管理者との共催事業として行う予定です。

<表-1「大倉山講演会」>

■共催:横浜市大倉山記念館指定管理者 会場:横浜市大倉山記念館ホール

開催日・場所	演題(仮題)	講師
4月13日(土) 第4集会室	大倉邦彦と富士見幼稚園(仮)と館内見学	当財団図書館運営部長 林 宏美
5月18日(土) 記念館ホール	日本女子大学創立者・成瀬仁蔵と実業家たち(仮)	日本女子大学名誉教授 片桐 芳雄
6月15日(土) 記念館ホール	渋沢栄一と養育院(仮)	東京都健康長寿医療センター 老年学 情報センター 司書 宮本 孝一
令和7年3月15日(土) 記念館ホール	岩倉使節団の海外体験(仮)	(講師未定)

(2) 東西文化融合の研究及びその成果の普及

日本の近代化と西洋文明の受容は、日本人の価値観や思想に大きな変化を及ぼしました。

大倉邦彦は、国民の教育や人格形成において、日本の伝統文化を学ぶことが基本であることを説き、当財団を創立しましたが、その一方で東洋文明の枠組みに囚われることなく、西洋文明の学問成果の良いところも積極的に取り入れることを提唱していました。

そこで令和6年度は、近代化が日本人の信仰や心身の修養などに与えた影響に着目して研究を進めていきます。さらに、大倉邦彦の思想に影響を与えたインドの詩聖タゴールの思想や東亜同文書院の研究、国際的文化人として東洋と西洋で活躍した岡倉天心の研究も進めます。

【公開講演会】

研究成果の一環として、表-2「公開講演会」に掲げた日程で公開講演会等を開催します。

<表-2「公開講演会」>

開催日	演題(仮題)	共催団体	講師
7月6日(土) ホール	東亜同文書院(愛知大学)の卒業生(仮題)	愛知大学 (東亜同文書院の後身)	愛知大学教授 (交渉中)
12月7日(土) ホール	岡倉天心と日本の英語教育(仮題)	岡倉天心市民研究会	未定

(3) 創立者及び研究所関連資料の研究・調査とその成果の普及

精神文化についての科学的研究及びその普及活動を行ううえで、研究の基礎となる資料を収集・整理・保存することが欠かせません。それを実践することにより、研究及びその普及活動を効率的・効果的に進めていくことができます。このような考え方に立って、創立者である大倉邦彦の思想や事績、研究所の創立から現代に至る沿革等の調査・研究、資料収集等を継続的に実施しています。

令和6年度も、所蔵資料のデジタル化作業を進めて、デジタル画像や音声、映像をより多く公開し

てきます。

ア 研究所沿革史資料の調査・整理

当財団には、創立準備中から今日に及ぶ沿革に係る資料や、書簡・葉書が大量に現存しており、これらを研究所沿革史資料(以下、「沿革史資料」という。)としてまとめて管理しています。しかし未整理の資料がまだ多くありますので、令和6年度も整理・登録作業を引き続き実施します。

また、附属図書館の書庫には未整理の書籍や雑誌、書類が残置されています。令和6年度も、これら未整理資料、特に大倉邦彦旧蔵雑誌の調査・整理を行います(第一期3カ年計画の3年目)。

イ 研究所沿革史資料のデジタル化

沿革史資料には様々な形態の資料があり、また外部機関よりの閲覧利用や借用依頼等も増えています。そこで原資料の保存と利用者の利便性を高める観点から、各資料のデジタル化作業を行っています。またデジタルアーカイブの公開に向けて、データ形式を整える作業等も実施しています(後掲、4頁「1(4)ウ①デジタルアーカイブの充実」参照)。

令和6年度は、富士見幼稚園関係の資料のデジタル化作業を優先して進めます。

ウ アナログ音源のデジタル化

当財団では、大倉邦彦を始めとする研究所関係者の肉声を記録したオープンリールテープや各種カセットテープ、SPレコードなどを所蔵しています。しかし、テープ類は劣化が著しく、SPレコードは歪みや破損の恐れがあり、また再生機器も無くなりつつあるのが実情です。そこで、前年度に引き続き、公開に向けてアナログ音源のデジタル化を進めます。

エ 研究所沿革史資料目録のOPAC公開

整理済の沿革史資料は約110,000点となり、外部研究者からの問合せや閲覧利用が増えつつあります。そこで平成30年度(2018)より細目録を採り、目録データを順次図書館情報管理システム「情報館」用のデータに変換し、OPAC(Online Public Access Catalog=オンラインで検索可能な蔵書目録)による公開を進めています。

令和6年度は、新たに約500件の目録データを公開します(後掲、7-8頁「3(2)ア③ 研究所沿革史資料の書誌データ公開」参照)。

オ 第49回研究所資料展「研究所沿革史資料を通してみる富士見幼稚園(仮題)」

研究や調査の成果公開の一環として、平成29年度より毎年8月、大倉山記念館指定管理者との共催でオープンギャラリーを開催しています。令和6年度は富士見幼稚園開園100周年にあたることから、当財団が所蔵する写真や資料を基に、大倉邦彦の教育理念や幼稚園の歩みを紹介するパネルを展示します(後掲、5頁「2(1)ア 大倉山記念館指定管理者」参照)。

カ 第50回研究所資料展「大倉山記念館40周年展(仮題)」

令和6年度は大倉山記念館が開館して40年目、大倉山秋の芸術祭の第40回という節目でもあります。そこで研究や調査の成果公開の一環として、11月はじめに行われる「第40回大倉山秋の芸術祭」において、研究所本館として竣工した横浜市大倉山記念館の特徴、秋の芸術祭の歩みなどを紹介するパネルを展示します。

キ 特別資料展「横綱武蔵山と昭和初期の相撲展(仮題)」

港北区出身の第33代横綱武蔵山は神奈川県出身の唯一の横綱で、現在でも港北区の少年相撲に影響を与え続けています。そこで、令和6年4月に横浜アリーナで地方巡業が開催されるに際し、港北図書館及び横浜アリーナと共催で、研究や調査の成果公開の一環として、武蔵山の生涯等を紹介するパネルや昭和初期の相撲資料を展示します。

ク 特別資料展「東横線の沿線案内展(仮題)」

地域資料として、東急東横線の沿線案内を多数寄贈いただきました。そこで、令和6年秋に港北図書館と共催で、沿線案内を紹介するパネル展示を行います。

(4) 印刷物の編集及び発行・電子情報の発信

当財団では、東西両洋における精神文化及び地域における歴史・文化の研究はもとより、その研究成果を国民に提供する公益目的事業を推進しています。令和6年度においても、研究成果等を心豊かな国民生活の実現と文化の振興に役立つよう国民に提供していきます。

ア 研究紀要『大倉山論集』第71輯の編集・発行

当財団の公益目的事業である東西両洋における精神文化及び地域の歴史・文化に関する科学的研究の成果を、『大倉山論集』として広く公表します。当財団の研究者や外部研究者が執筆者となり、歴史、思想、宗教、文学、民俗、風俗等人文科学を中心とした論考を掲載し、令和7年3月に発行します(500冊)。国立国会図書館、アメリカ議会図書館など国内外の図書館を中心に配布する計画です。

イ 各種リーフレット等の編集・発行

当財団の活動目的や活動内容等の周知を図り、研究成果の公開や普及活動の効果を高めるために、当財団の事業案内や大倉山記念館の建物紹介、展示解説等、精神文化普及のための各種リーフレット等の広報用資料を編集・発行します。

ウ 電子情報の発信

近年、インターネットを通じた電子情報の公開が進んでおり、特に新型コロナウイルス感染症が拡大した令和2年度以降、その重要性がさらに増しています。そこで当財団でも、デジタル化作業とインターネットでの公開を推進しています。令和6年度は、特に以下に掲げる3つの事業を実施します。

① デジタルアーカイブの充実

創立90周年にあたる令和4年度にデジタルアーカイブの環境を整備したことで、紙資料、写真、映像や音源のデジタル化データをより多く公開することが可能となりました。そこでデジタル化作業と並行して、順次公開を進めていきます(再掲、3頁「1(3)イ 研究所沿革史資料のデジタル化」、「1(3)ウ アナログ音源のデジタル化」、後掲、8頁「3(2)ウ 貴重コレクションの撮影」参照)。

令和6年度は、特に以下のデジタル公開を優先して進めます。

1. デジタル化したアナログ音源と所蔵する大倉邦彦の揮毫の一部(前年度より継続)
2. 富士見幼稚園に関するデジタル資料(新規)

② NDLサーチ(国立国会図書館サーチ)との提携

NDLサーチとは、国立国会図書館をはじめ、全国の公共・大学・専門図書館、公文書館、美術館や学術研究機関など様々な機関が所蔵する資料を統合的に検索するシステムです。令和6年度中に、NDLサーチとの提携を行います。これによって、他機関との情報共有がより進み、また外部からのアクセスがさらに増加することが見込まれます(後掲、7頁「3(1)ウ② インターネットの活用」参照)。

③ 『大倉山論集』のPDF(Portable Document Format)による公開

前年度に刊行した『大倉山論集』第70輯を、誰でも閲覧できるように、PDFで公開します。

2 地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及(定款第4条第1項第2号)

令和6年度も、港北区、横浜市、神奈川県等の行政や、公共図書館、博物館、学校、市民サークル等と幅広く連携し、講演、授業、情報誌等への原稿執筆、館内見学会、地域散策等を行うことにより、地域における歴史・文化の研究及びその成果の普及に努めます。

(1) 他機関との連携事業

港北区、横浜市、神奈川県等の行政や、公共図書館、博物館、学校、市民サークル等と、積極的に連携していきます。

ア 大倉山記念館指定管理者

大倉山記念館指定管理者と協力して、8月のオープンギャラリーの展示会(再掲、3頁「1(3)オ 第49回研究所資料展」参照)、9月と2月のオープンデイ、10月頃のタゴールソングコンサート等を開催します。また、記念館3階の回廊において、大倉邦彦や記念館に関するパネル展示を常設します。

イ 港北図書館及び港北図書館友の会

港北図書館及び港北図書館友の会等と連携して、地域における歴史・文化等に関する講演会や展示会等を開催します。

(2) 講師派遣

依頼により、各所の講演や授業等へ講師を派遣します。

(3) 依頼原稿の執筆

港北区役所発行の情報紙『楽・遊・学』(発行部数3,500)の「シリーズわがまち港北」、ASA大倉山発行『大倉山STYLE』(発行部数8,500)の「大好き!大倉山」に、原稿を執筆します。その他依頼により原稿を執筆します。

(4) 調査協力

資料所蔵者等からの依頼により、地域資料の調査や整理、聞き取りなどを行います。

(5) 見学案内

行政機関、各種団体・サークル等の依頼や、各種イベントに合わせて横浜市大倉山記念館の館内見

学や周辺地域の散策等の見学案内を行います。

(6) 地域資料の収集・整理

当財団が所在する横浜市港北区をはじめとする周辺地域の歴史や文化などを知るためには、図書・雑誌・地図などの印刷資料や写真などの地域資料が不可欠です。しかし、これらの多くは非市販資料で、散逸してしまう可能性が高いため、これら地域資料の収集に努め、公開に向けた整理作業を進めていきます。

3 附属図書館の運営及び図書資料の充実・整備(定款第4条第1項第3号)

令和6年度も、誰でも自由に利用出来る専門図書館として一般公開するとともに、図書資料の充実・整備を図り、情報提供機能を強化して、より利便性の高い図書館を目指します。

(1) 附属図書館の運営

大倉精神文化研究所附属図書館（以下、「当館」という。）は、創立者大倉邦彦が目指した東洋と西洋の精神文化の融合を迫及する専門図書館として、哲学・宗教・歴史などの専門図書から入門書まで約110,000冊の蔵書を有しています。中でも、神道・儒教・仏教等の資料群や貴重コレクションは、全国的にも学術価値の高い資料です。

当館はそれらを誰でも自由に利用出来る図書館として高く評価されています。令和6年度も、より一層充実した図書館サービスの提供と、利用者にとって快適で安全な環境整備を進めていきます。

ア 附属図書館の公開

当館は、原則として毎週火曜日から土曜日まで週5日一般公開します（開館時間は、午前9時30分から午後4時30分まで）。週5日の一般公開に加えて、9月と2月の大倉山記念館オープンデー、11月の大倉山秋の芸術祭、12月の小さな丘のメリークリスマス、2月の大倉山観梅会等地域に根差した催事が行われる時は、臨時に開館します。また、今年度より新たに5月の大倉山こどもフェスティバル開催日も臨時に開館します。

なお、「5類感染症」に位置づけられた新型コロナウイルス感染症への感染対策も引き続き実施し、利用者の健康と安全に十分留意し、開館していきます。

イ 資料の収集

当館は、精神文化に関する資料、特に神道・儒教・仏教や歴史の専門的資料に重点を置いて収集しています。さらに、一般利用者にも読みやすい入門書・教養書、小・中学生から一般の方までを対象とした「やさしく読める心の本コーナー」（子ども向け精神文化図書コーナー）の図書、専門機関や大学発行の雑誌資料等も収集します。

収集した資料は外部からでもインターネットで検索できるようOPACにより、これを公開します。

ウ 利用者のニーズに応じた図書館サービスの提供

① レファレンスサービスの充実

当館は、全国でも珍しい精神文化の専門図書館として、専門図書の公開に加えて、レファレンスサービスの向上が強く求められています。専門図書館協議会、神奈川県図書館協会、近隣図書館、株式会社ブレインテックなどの団体・図書館等の主催による研修に積極的に参加し、司書のスキルアップを図るとともに、他機関との情報交換を行い、連携を深めることで、情報提供機能を強化します。

また、研究所の附属という当館の強みを活かし、研究員と連携して利用者の多様なニーズに応えるレファレンスサービスの提供を図ります。

② インターネットの活用

当館の利用者は、全国の研究者と、近隣住民に大別されます。研究者はインターネット検索により専門資料の利用に至ります。一方、近隣住民は直接来館して一般書を利用します。

このような利用者の多様な要望に応えるため、蔵書検索、資料の予約・複写申込、貴重コレクションの閲覧申込、レファレンスサービスといった図書館サービスの提供にインターネットを活用していきます。

令和6年度は、新たにNDLサーチ（国立国会図書館サーチ）との提携を開始し、他機関との情報共有を深めて、利便性の向上をより一層図ります（前掲、4-5頁「1(4)ウ② NDLサーチとの提携」参照）。

(2) 専門図書館としての資料管理と機能の充実

精神文化の専門図書館である当館は、一般資料に加えて、23種類約40,000冊に沿革史資料（約110,000点）を加えた24種類に及ぶ貴重コレクションを所蔵しています。貴重コレクションは、①開館に先立ち大倉邦彦が収集した資料、②大倉邦彦の人脈をもとに受贈又は購入した資料、③研究過程で収集した資料に大別できますが、その大半は他館では所蔵していない貴重な資料です。これらの資料へのアクセス性向上と永続的な利用を可能とするため、書誌データの作成・整備と適切な資料保存環境の整備に努めます。

ア 貴重コレクション書誌データのOPAC公開

貴重コレクションは、平成25年度から独自に書誌データの作成を進めており、24種類のコレクションのうち、令和5年度までに、17コレクションについてはOPAC検索を可能にしました。残りのコレクションについても、次のように継続して書誌データの作成を進め、専門図書館としての機能充実を図ります。

① 大倉邦彦旧蔵文庫の整備

研究所創立から90年を迎えた令和4年4月に、大倉邦彦旧蔵文庫（約3,000冊）の書誌データのOPAC公開をしましたが、一般資料に分類されていた邦彦旧蔵資料や未整理資料の書誌データは、現在も整備中です。令和6年度も継続して整備を進めます。

② 書誌データ整備の継続

令和4年度より開始した岩波茂雄寄贈書の書誌データ整備、令和5年度より開始した葛巻常四郎寄贈書と松井等旧蔵文庫の書誌データ整備を、令和6年度も継続していきます。

③ 研究所沿革史資料の書誌データ公開

平成30年度より開始した研究所沿革史資料の書誌データ公開は、令和6年度に約500件をOPAC公開します（再掲、3頁「1(3)エ 研究所沿革史資料目録のOPAC公開」参照）。

イ 閉架書庫内資料の簡易データの詳細化

当館では、図書館情報管理システムの導入に際して、より多くの資料のOPAC検索を可能にすることを基本方針としたため、多くの資料は書名・著者名の最小限の項目だけ入力した「簡易書誌データ」で運用を開始しました。導入後は、簡易書誌データに出版者・出版地・出版年・件名・キーワード等を追加する詳細化の作業を進めています。

令和6年度も閉架書庫内資料の一部に残る簡易書誌データの内、約2,000件を詳細化して利用者の利便性を高めます。

ウ 貴重コレクションの撮影

貴重コレクションは、資料保存の観点からコピー（電子式複写）を禁止しています。その代替措置として、複写依頼のあった資料について司書によるデジタル撮影を行っています。書誌情報のOPAC公開を進めたことで、外部からの蔵書検索が増加し、資料の存在が認知されることによって、大学・研究機関・個人研究者からの複写依頼も増えています。今後も依頼された資料のデジタル撮影を進め、資料の利用に便宜を図るとともに、撮影した写真データをデジタルアーカイブとして順次公開を進めていきます（再掲、4頁「1(4)ウ① デジタルアーカイブの充実」参照）。

エ 資料の保全

当館の貴重コレクションは、他館で所蔵されていない貴重な資料が数多く含まれています。これらの資料を健全な状態で保存し、後世に伝えていくことは当館の重要な役割の一つです。

① 書庫内環境の整備

築年数の古い当館の書庫は、外気を遮断できる構造ではありませんので、書庫内のサーキュレーター稼働や、防虫のための粘着マット使用、ホコリ・カビの除去作業等により、資料の保全に適した書庫内環境の整備を年間を通して行います。

② 資料保存箱の作成

当館では、貴重資料を中性紙の保存箱・封筒に入れる作業等を進めています。平成28年度からはボランティアの協力を得て、1冊ごとのサイズに合わせた中性紙の保存箱を作成してきました。令和6年度も継続して実施します。

また、令和5年度に引き続き、保存箱作成と配架作業を専門業者にも委託し、より多くの貴重資料の保全を図ります。

(3) 利用促進のための広報活動

精神文化の専門図書館、市民利用施設内の公共図書館である当館を広く周知し、新規利用者を開拓するため、広報活動を行います。

ア 附属図書館利用案内リーフレットの発行

当館では、利用方法や所蔵資料の概要をまとめた利用案内リーフレットを作成し、催事や見学会で配布して広報を行っています。

令和6年度は、資料整理やOPAC公開の成果等最新の情報を反映したリーフレットの改訂版を発行し、来館者等に配布します。また、令和3年度に開設した「やさしく読める心の本コーナー」の利用拡大のため、子ども向けの利用案内を新たに制作します。

イ ホームページでの情報発信

ホームページでの定期的な新着図書の紹介・催し物の案内、利用に関するお知らせ、特定のテーマのブックリスト、おすすめ本等の情報を随時発信します。新たに制作する子ども向け利用案内も掲載します。

ウ 所蔵資料の紹介展示

閲覧室の小スペースや展示ケースを利用して、〈表-3〉で掲げた所蔵資料を紹介する資料展を行い、閲覧利用や貸出につなげます。

① 図書館資料展

図書館資料展は、他館での所蔵がなく、普段見ってもらう機会の少ない貴重コレクションを中心に紹介する展示です。令和6年度は、春にタゴール月間記念展示、夏に小・中学生を対象とした資料展を実施する他、豊かな心を育むことをテーマとする資料展を行います。

② 図書館ミニ展示

図書館ミニ展示では、当財団で開催している講演会、大倉山秋の芸術祭での図書館企画ワークショップ等に合わせて、各イベントの広報や内容理解を深めるため、貸出可能な資料を中心に紹介します。時節等に沿ったテーマ展示も行います（1-5頁「1 精神文化の研究及びその成果の普及」参照）。

<表-3 「所蔵資料の紹介展示」>

種別	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
図書館資料展	タゴール月間記念展示		○										
	子ども関連資料展示					○							
	大倉邦彦関連資料展示								○				
	その他テーマ展示											○	
図書館ミニ展示	大倉山講演会	○	○	○									○
	愛知大学共催講演会					○							
	岡倉天心市民研究会共催講演会									○			
	図書館ワークショップ							○					
	時節に沿ったテーマ展示											○	

エ 大倉山秋の芸術祭

大倉山秋の芸術祭は、多くの市民が訪れることから、当館を広く知ってもらう機会と考え、開催期間中の日曜日・祝日は臨時に開館します（再掲、6頁「3(1)ア 附属図書館の公開」参照）。

令和6年度は、縁起物である水引の歴史、色や本数、結び方の意味などを参加者が学びながら、実際に水引を作成する図書館ワークショップを開催し、関連資料の展示も行います（再掲、9頁「3(3)ウ 所蔵資料の紹介展示」参照）。

また、除籍本等による「リユース文庫」も設置して、市民の読書活動の推進と資料の有効活用を図ります。

オ 記念しおりの作成

令和14年度（2032）の創立100周年に向けて、『日本精神文化曼荼羅』とそこに描かれている先哲を紹介するしおりを作成します。令和6年度から14年度までに合計12種類を作成し、大倉山秋の芸術祭等で配布し、図書館及びその設立趣旨の周知と読書意欲の向上による利用促進を図ります。

令和6年度は、第一弾（初回）として「聖徳太子」のしおりを作成します。

カ 図書館総合展

毎年開催される図書館総合展は、専門業者から図書館に関心を持つ一般の方まで、全国から多くの来場者が訪れます。当館は毎年参加してきましたので、令和6年度も継続して参加し、当館の周知と新規利用者の開拓を図ります。また、展示会会場に足を運び、他館や専門業者等との交流・情報入手の機会とし、図書館サービスの向上に役立てます。

キ 外部機関との連携

港北区役所や港北図書館、姉妹図書館提携を結んでいる佐賀県神埼市立図書館、その他関係機関等と連携して、読書活動推進や広報活動に取り組みます。